

こぼれ話9

御駒止之松

甲州街道から市役所通りの坂を上る途中、宝泉寺会館の南に「御駒止之松」と書かれた碑があります。

大正十年十一月十七日から四日間、武蔵・相模の一带で陸軍特別大演習が行われました。特別大演習とは、毎年一回、二個師団以上が参加して、東軍と西軍に分かれて実戦さながらの對抗演習をするものです。このとき日野町、七生村とも、對抗演習の交戦地となり、将兵たちの食事や宿舎の用意をしました。

大演習を統監するため、十七日正午に日野を訪れた皇太子裕仁親王（後の昭和天皇）は、日野駅から馬に乗り、大昌寺の門前を通って御野立場（現矢の山公園）へ向かいました（写真）。しかしとても急な坂道なので、坂の下の林の中にあらかじめ馬繫場が用意され、皇太子は途中で馬から下り、歩いて登って行きました。戦後、神明の台地上に通じる道路が新しくできたので、駒（馬）を繋いだ場所の近くに記念の碑が建てられているのです。



御野立場に向かう皇太子